

令和2年度 事業報告書

目 次

I	事業総括	1
II	事業報告	
1	調査啓発事業	2
2	不燃用プリペイド袋リサイクル事業	3
3	資源化事業	
3-1	剪定枝等処理事業	5
3-2	びん・缶・ペットボトル選別事業	7
3-3	施設管理受託事業	
(1)	ごみ資源化工場ほか施設管理事業	10
(2)	中沼プラスチック選別センター施設管理事業	13
(3)	中沼雑がみ選別センター施設管理事業	15
(4)	札幌市リサイクル団地管理事業	17
3-4	大型ごみ収集センター管理運営事業	18
4	事業系ごみ収集運搬事業	20

I 事業総括

調査啓発事業では、剪定枝チップの有効活用方法と粉砕機ハンマーに関する「調査研究事業」は計画通り実施できたが、広報活動や各種イベントへの参加は一部中止となった。

不燃用プリペイド袋リサイクル事業及び資源化事業（剪定枝・ごみ資源化工場・中沼雑がみ選別センター）では、搬入量が計画より減少したが、びん・缶・ペットボトル選別事業等の資源化事業は、概ね計画通りであった。

事業系ごみ収集運搬事業における収集量は、体積で計画比 12.4%の減（前年度実績比 11.7%減）、重量で計画比 15.7%の減（前年度実績比 14.6%減）となった。

各事業とも、新型コロナウイルス感染症の拡大により、少なからず計画した搬入量、収集量等に影響があったものの、安定した運営を行った。

重点項目の実施結果

（１）事業系ごみ収集運搬事業の効率化

搬入証明書に添付するための搬入状況の写真撮影を作業員の安全確保と負担軽減を図るため、令和2年4月より廃止した。また、FAXによる収集申込受付についても、WEBサポートサービスや電話での申し込みに誘導することにより、すべて廃止することができ、事務作業・収集作業の効率化を図ることができた。

（２）施設の計画的な保全

施設整備計画に基づき、中沼資源選別センターの残さ運搬車両2台の更新を行ったほか、駒岡資源選別センターではペット搬送コンベヤの増設及び残さ運搬車両1台の更新を行った。

（３）剪定枝チップの有効活用方法等に関する調査研究

令和元年度に篠路資源化センター敷地内に剪定枝チップを原料とした舗装資材「剪定枝チップブロック（遊歩道等舗装用成型材料）」を試験敷設し、その後、1年が経過したが、耐久性その他の路盤材としての性能に問題がないことを確認した。

（４）顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応

新型コロナウイルス感染症予防対策として、「ごみ収集伝票」の受け渡し方法の変更案内を行ったほか、生ごみに混入する夾雑物の分別徹底のお願いなど、ホームページで適時情報の発信を行った。

（５）事務・事業の見直し及び経費の節減

24時間利用できる「プリペイド袋収集受付システム」について、文書での案内や新規契約事業所への積極的なPRを行ったことにより、総受注件数の約4割がこのシステムを利用した受注となり、電話本数の削減など事務作業の改善を図ることができ、ひいては経費の削減につながった。

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業（決算額 42,227,079円）

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクルに関する調査研究を実施。 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、(1)広報活動による情報発信、(2)環境関連のイベントへの出展や協賛を行っている。
目的・効果	リサイクルに関する調査研究、リサイクルの普及啓発。

■令和2年度事業実績

(1) 調査研究事業

①剪定枝チップの有効活用方法等に関する調査研究

舗装業者に発注して試作した舗装資材「剪定枝チップブロック（遊歩道等舗装用成型材料）」を令和元年度に篠路資源化センター敷地内に試験敷設していたが、令和2年度は敷設後1年が経過したチップブロックを回収して弾力性試験、形状変化測定等を行い、舗装資材としての性能に問題がないことを確認した。

②粉砕機ハンマーに関する調査研究

平成29年度からハンマーのライフサイクルの適正化と製造コストの削減を目的として改良型ハンマーによる実証試験を実施しており、令和2年度も引き続き従前と形状・材質の異なるハンマーを使用して処理を行ったが、概ね良好な結果が得られた。

(2) 普及啓発活動

①広報活動

- ・当公社の事業内容及び各年度の事業実績等をまとめた「事業概要」を250部発行し、関係先に配布した。
- ・びん・缶・ペットボトルリサイクルの普及啓発のため、札幌市内小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を18,000部発行し、市内全校に配布した。
- ・ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信した。
- ・例年行っていた啓発ポスターをごみ収集車の車体側面に掲示する「走る掲示板」の啓発活動については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため小学校が休校になった影響で、令和2年度は実施することが困難となり、中止した。

②イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

例年出展していた「環境広場さっぽろ」が中止となり、代替開催された「バーチャル環境広場さっぽろ2020」のパネル展に出展と協賛を行った。

また、「さっぽろこども環境コンテスト2020」への協賛は行ったが、その他、例年協賛している「さっぽろ夏まつり」や「さっぽろ雪まつり」などのイベントは中止となった。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 58,877,424円)

■事業概要

事業経緯	平成21年4月から実施している公社の自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和63年3月完成の市有施設(公社が無償借り受け) ※選別に係わるものは公社が設置
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化。

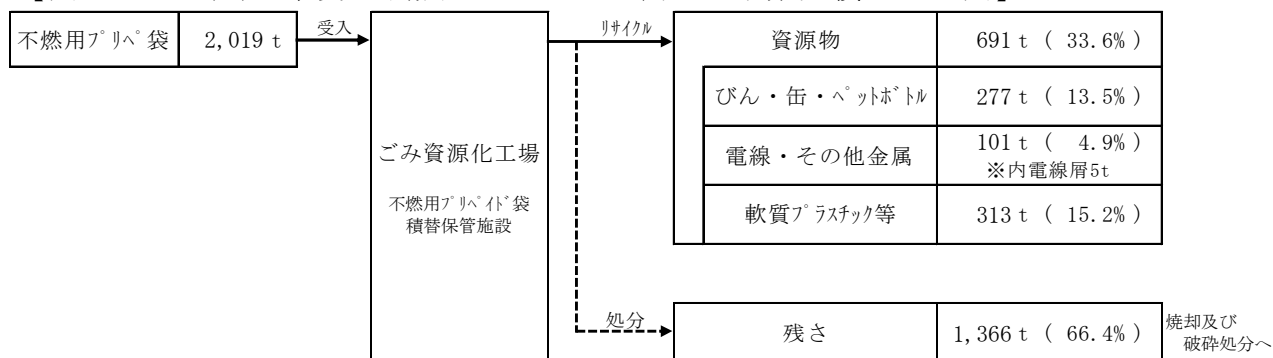
【選別品目と活用方法】

選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別。
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却。
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原料として活用。

■令和2年度 事業実績

項 目	計 画	実 績	摘 要
不燃用プリペイド袋受入量	2,210 t	2,019 t	計画比 8.6% 減、 前年度実績比 8.4% 減
資源物	775 t	691 t	計画比 10.8% 減、 前年度実績比 6.9% 減

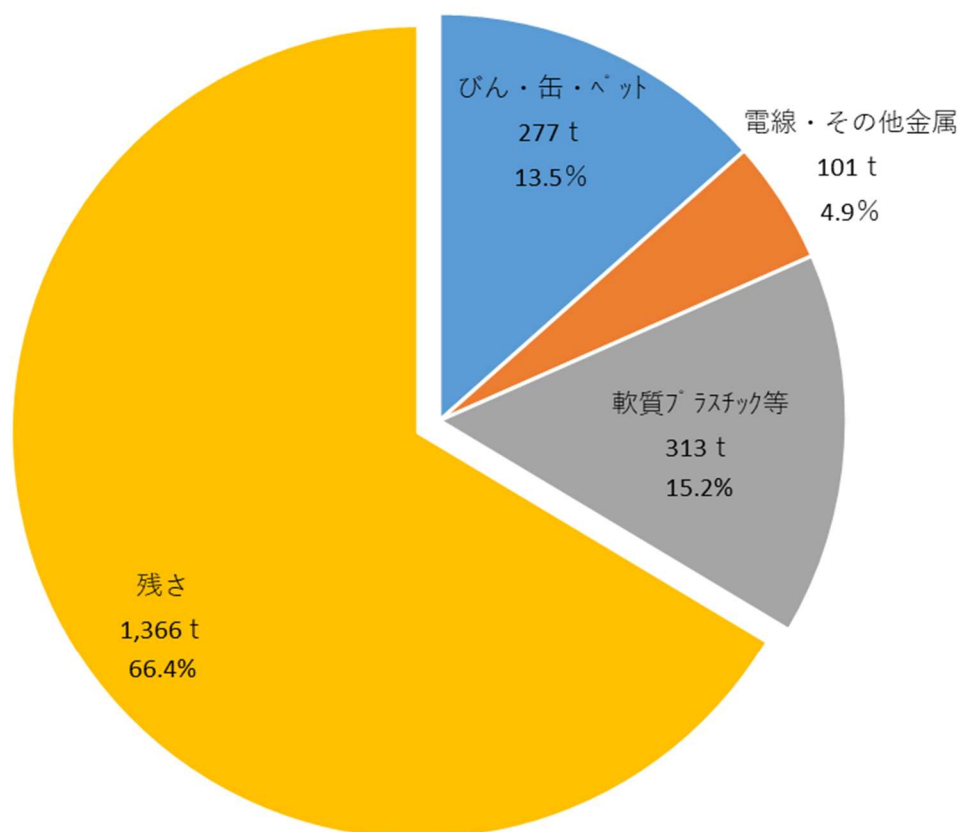
【図2-1 令和2年度 不燃用プリペイド袋処理事業実績フロー図】



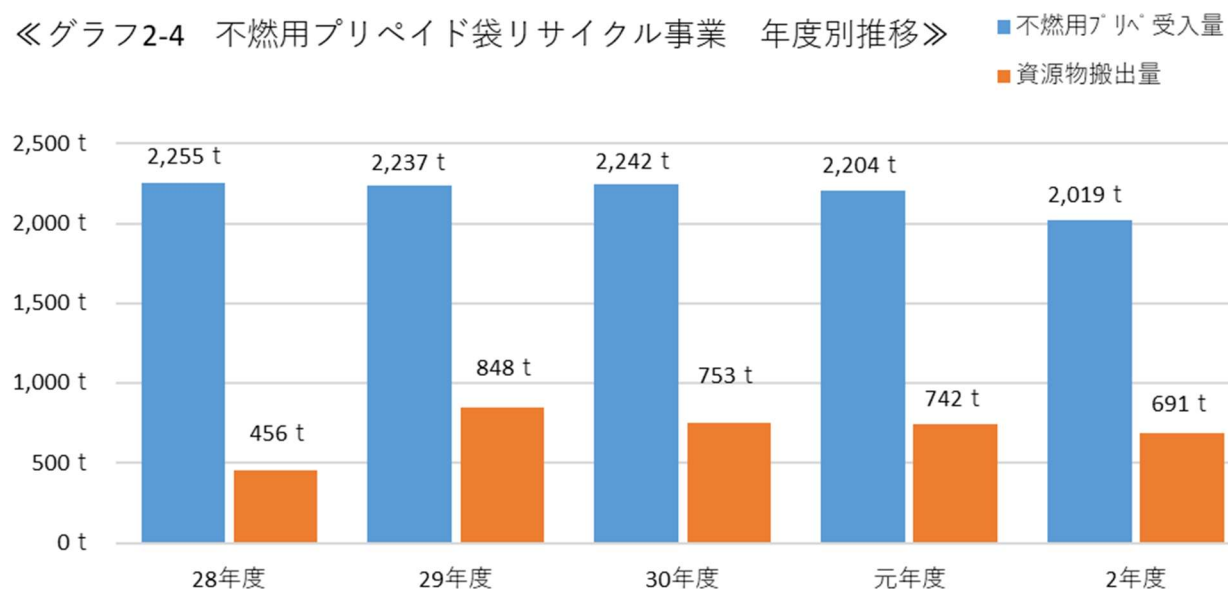
【表2-2 直近5年間の事業実績】

項 目		直近5年間の実績					摘 要 (令和2年度実績の状況)
		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
受入量		2,255 t	2,237 t	2,242 t	2,204 t	2,019 t	前年度実績比 8.4% 減
資源物	びん・缶・ペットボトル	256 t	375 t	323 t	314 t	277 t	
	電線・その他金属	97 t	130 t	119 t	115 t	101 t	※内電線屑5t
	軟質プラスチック等	103 t	343 t	311 t	313 t	313 t	
	資源物合計	456 t	848 t	753 t	742 t	691 t	前年度実績比 6.9% 減
残さ		1,888 t	1,466 t	1,560 t	1,544 t	1,366 t	焼却及び破砕処分
リサイクル率		19.5%	36.6%	32.6%	32.5%	33.6%	資源物合計/(資源物合計+残さ)

《グラフ2-3 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 令和2年度実績》



《グラフ2-4 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 年度別推移》



3 資源化事業（決算額 1, 165, 554, 769円）

3-1 剪定枝等処理事業（決算額 57, 997, 510円）

■事業概要

事業経緯	平成20年9月の旧札幌幌リサイクル公社廃止に伴う継承事業で、平成20年10月から当公社の自主事業として実施している。
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破碎処理等して45mm以下のチップに加工し、堆肥の原料や燃料チップ、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和63年3月完成の市有施設 ※行政財産使用許可を得て、有償で公社が借り受け 横型回転破碎機（15 t/h）×1基、ロータリースクリーン設備等
目的・効果	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化。

【受入対象物】街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根

【受入条件】幹は直径80cm以内、長さ2m以内

根は最大寸法（直径または長さ）1m以内で、土を落としたもの

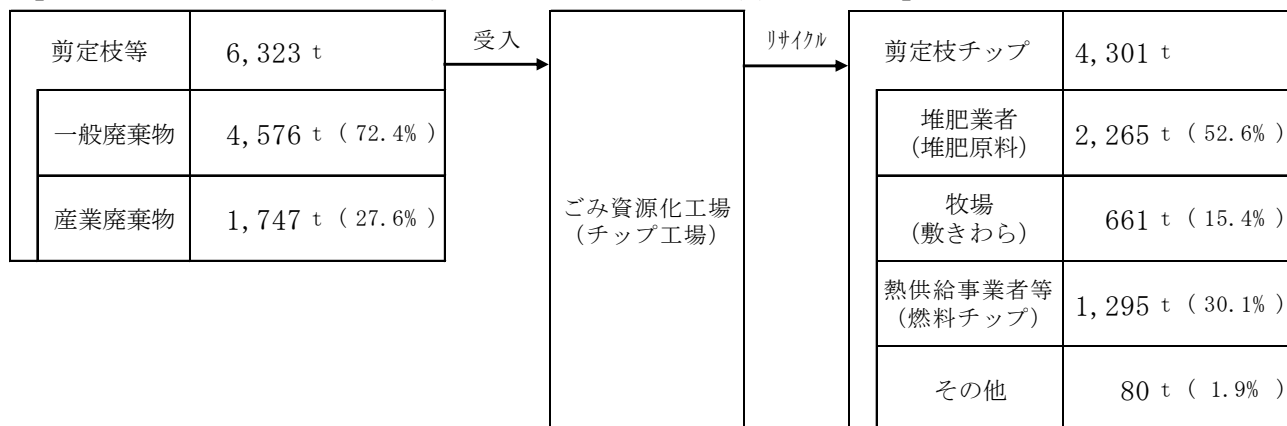
【チップ仕様】45mm以下（用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整）

【供給先】堆肥生産事業者（堆肥原料）、熱供給事業者（燃料）、牧場（敷きわら）

■令和2年度 事業実績

項目	計画	実績	摘要
剪定枝等受入量	7,500 t	6,323 t	計画比 15.7% 減、前年度実績比 20.1% 減
チップ出荷量	7,000 t	4,301 t	計画比 38.6% 減、前年度実績比 48.3% 減

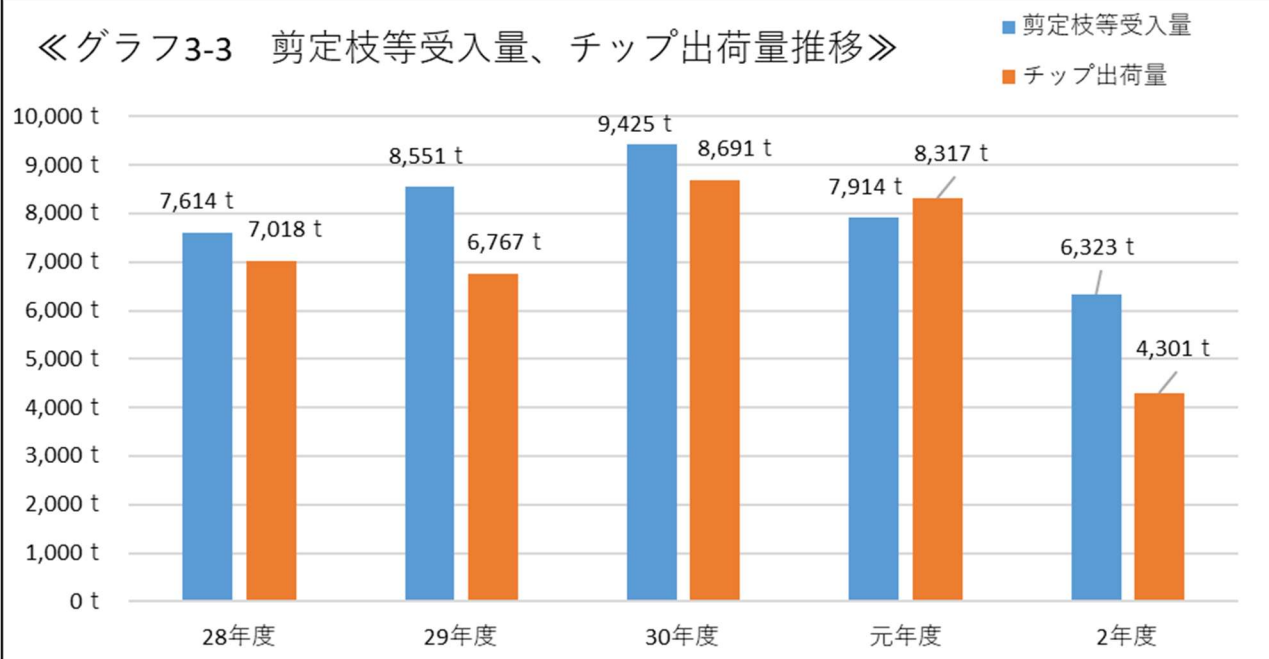
【図3-1 令和2年度 剪定枝等処理事業実績フロー図】



【表3-2 直近5年間の事業実績】

項目	直近5年間の実績					摘要 (令和2年度実績の状況)
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
剪定枝等受入量	7,614 t	8,551 t	9,425 t	7,914 t	6,323 t	前年度実績比 20.1% 減
チップ出荷量	7,018 t	6,767 t	8,691 t	8,317 t	4,301 t	前年度実績比 48.3% 減

《グラフ3-3 剪定枝等受入量、チップ出荷量推移》



3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 927,191,538円)

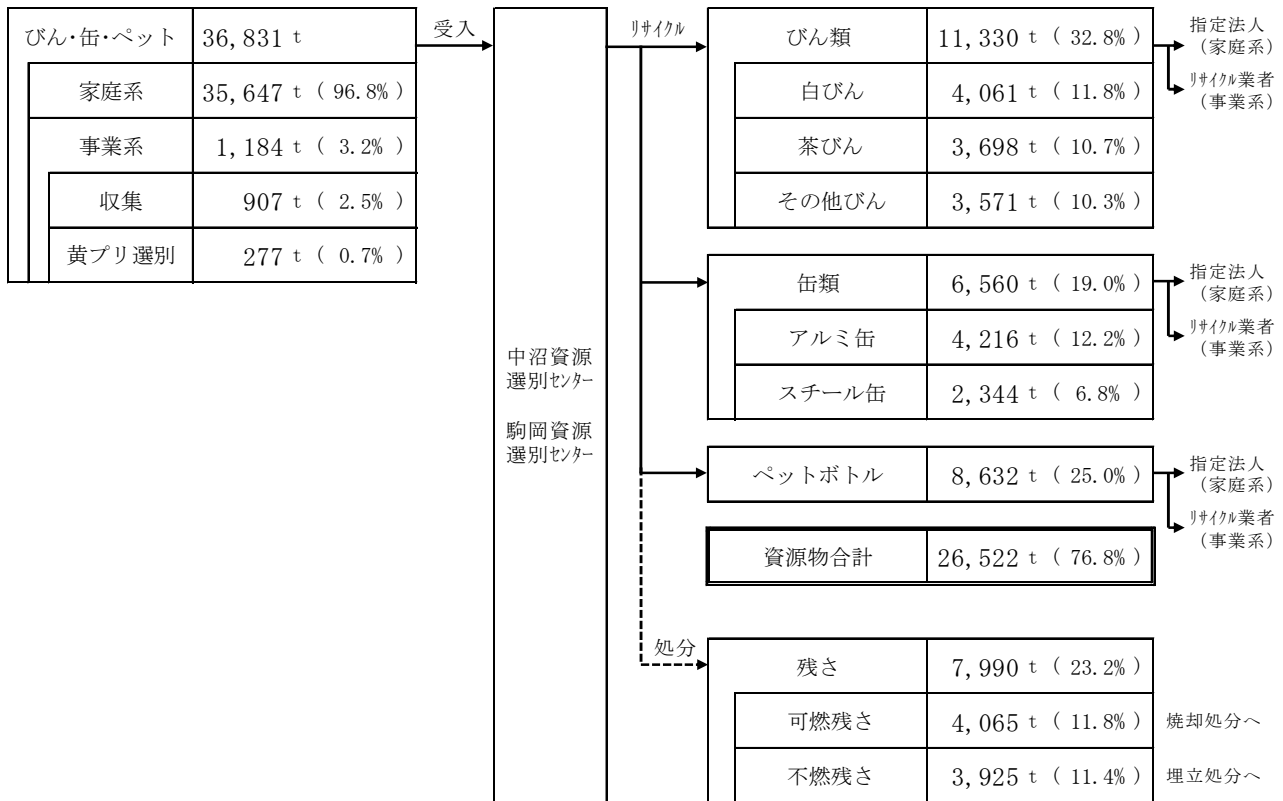
■事業概要

事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するにあたり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結、施設の完成後、平成10年10月から本格実施している札幌市からの受託事業。
実施内容	・札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 ・公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 ・なお、駒岡センターの手選別業務については、札幌市との当初の協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。
実施場所 (受入施設)	中沼資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 36.7 t/日(8h) × 3 系列 = 110 t/日(8h) 駒岡資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 38.5 t/日(8h) × 2 系列 = 77 t/日(8h)
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

■令和2年度 事業実績

項 目		計 画		実 績		摘 要
受 入 量	中沼資源選別センター	25,322 t	家庭系 24,173 t 事業系 1,149 t	25,266 t	家庭系 24,385 t 事業系 881 t	
	駒岡資源選別センター	10,771 t	家庭系 10,327 t 事業系 444 t	11,565 t	家庭系 11,262 t 事業系 303 t	
	合 計	36,093 t	家庭系 34,500 t 事業系 1,593 t	36,831 t	家庭系 35,647 t 事業系 1,184 t	家庭系: 計画比 3.3% 増、 前年度実績比 5.5% 増 事業系: 計画比 25.7% 減、 前年度実績比 21.7% 減
資 源 物 搬 出 量	中沼資源選別センター	18,421 t		18,100 t		
	駒岡資源選別センター	8,026 t		8,422 t		
	合 計	26,447 t		26,522 t		
			びん類 11,773 t		びん類 11,330 t	計画比 3.8% 減、 前年度実績比 1.1% 減
			缶類 6,243 t		缶類 6,560 t	計画比 5.1% 増、 前年度実績比 7.7% 増
			ペット 8,431 t		ペット 8,632 t	計画比 2.4% 増、 前年度実績比 4.5% 増

【図3-4 令和2年度 びん・缶・ペットボトル選別事業実績フロー図】



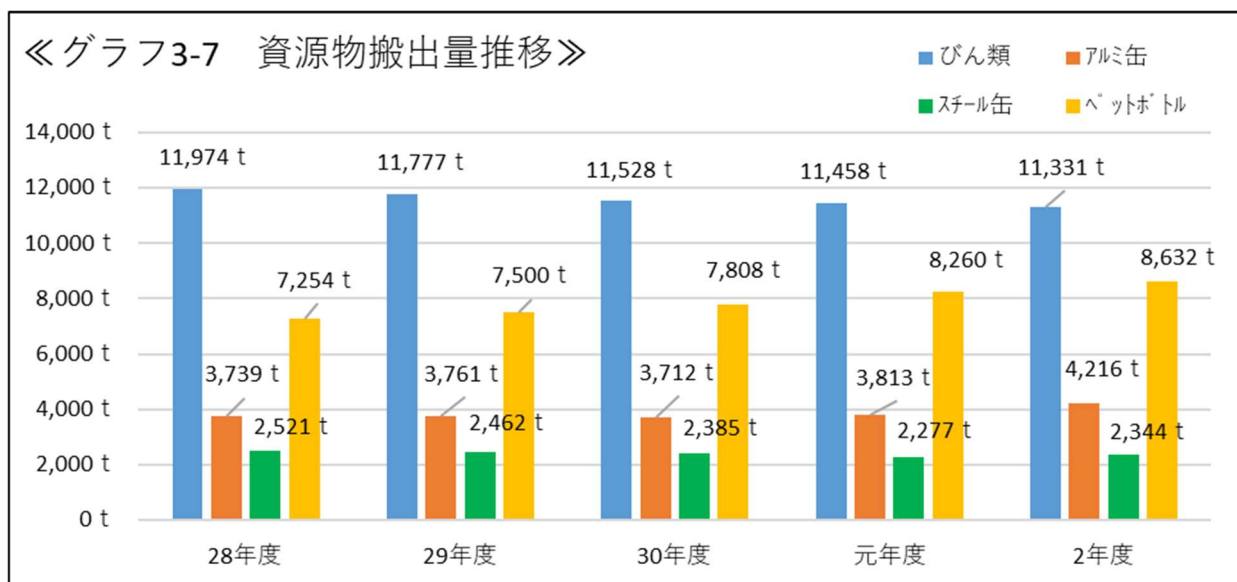
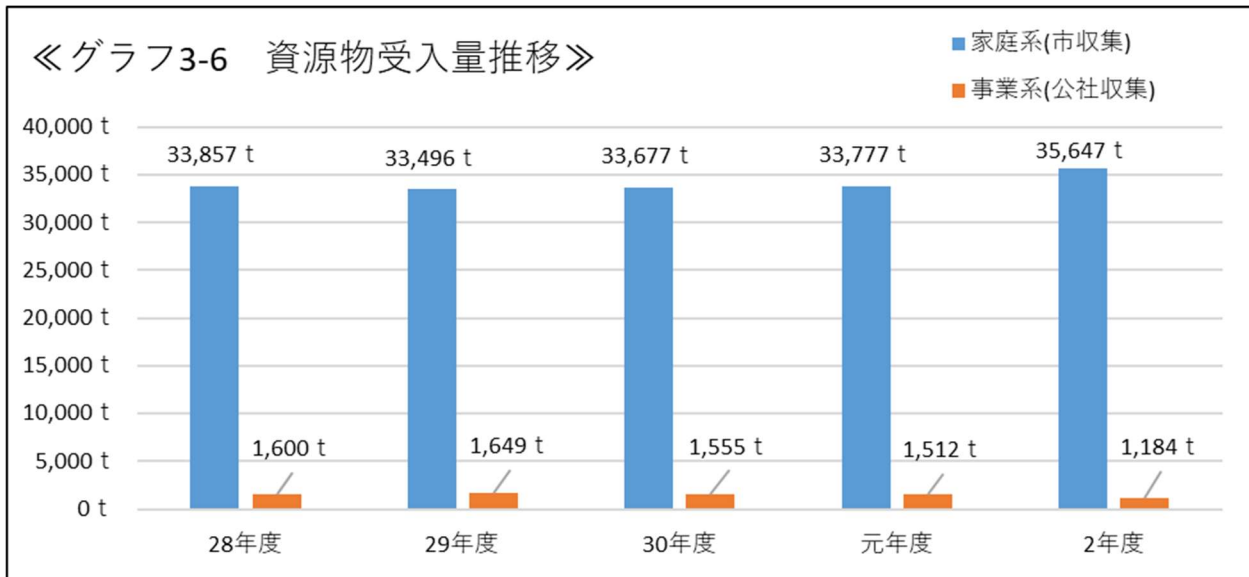
【表3-5 直近5年間の事業実績】

項 目		直近5年間の実績					摘 要 (令和2年度実績の状況)	
		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度		
	受入量	35,457 t	35,145 t	35,232 t	35,289 t	36,831 t	前年度実績比	4.4% 増
	家庭系	33,857 t	33,496 t	33,677 t	33,777 t	35,647 t	前年度実績比	5.5% 増
	事業系	1,600 t	1,649 t	1,555 t	1,512 t	1,184 t	前年度実績比	21.7% 減
	公社収集	1,344 t	1,274 t	1,232 t	1,198 t	907 t		
	黄ブリ選別	256 t	375 t	323 t	314 t	277 t		
資源物搬出量	びん	11,974 t	11,777 t	11,528 t	11,458 t	11,330 t	家庭系のみ指定法人ルート	
	白びん	4,603 t	4,474 t	4,372 t	4,071 t	4,061 t		
	茶びん	3,964 t	3,890 t	3,739 t	3,766 t	3,698 t		
	その他びん	3,407 t	3,413 t	3,417 t	3,621 t	3,571 t		
	缶	6,260 t	6,223 t	6,097 t	6,090 t	6,560 t		
	アルミ缶	3,739 t	3,761 t	3,712 t	3,813 t	4,216 t		
	スチール缶	2,521 t	2,462 t	2,385 t	2,277 t	2,344 t		
	ペットボトル	7,254 t	7,500 t	7,808 t	8,260 t	8,632 t	家庭系のみ指定法人ルート	
	資源物搬出量合計	25,488 t	25,500 t	25,433 t	25,808 t	26,522 t	前年度実績比	2.8% 増
残さ	可燃残さ	4,818 t	5,239 t	4,445 t	4,200 t	4,065 t		
	埋立残さ	3,286 t	3,058 t	3,431 t	3,264 t	3,925 t		
	残さ合計	8,104 t	8,297 t	7,876 t	7,464 t	7,990 t		
リサイクル率		75.9%	75.5%	76.4%	77.6%	76.8%		

※リサイクル率＝資源物搬出量合計／(資源物搬出量合計＋残さ合計)

【資源物の引き渡しについて】

- 札幌市収集分の資源物については、資源物の種類ごとの市況に応じ、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じた指定法人ルートまたは札幌市が再商品化事業者と直接契約する独自ルートのいずれかで再商品化事業者引き渡ししている。
- 公社が収集した事業系の資源物（搬入量比で按分）については、札幌市の家庭系資源物が指定法人ルートまたは独自ルートのいずれかで引き渡し先となったリサイクル業者（再商品化事業者）を相手方とし、公社が独自に別途契約して引き渡ししている。



3-3 施設管理受託事業（決算額 150,045,714円）

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当公社が実施している。
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、当公社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。 【事業区分】 (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (ごみ資源化工場、篠路破碎工場、篠路破碎工場付帯施設) (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業
目的・効果	市有施設の適正かつ効率的運用による安定したごみ処理の実施。

■令和2年度 事業実績

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業（決算額 72,429,461円）

【対象施設と事業内容】

① ごみ資源化工場及び貯留サイロ（平成2年度～）

- ・平成2年3月完成のRDF工場及び昭和61年6月完成の貯留サイロ、昭和63年3月完成のチップ工場
- ・事業系の紙くず及び木くずを受け入れて固形燃料(RDF)を生産し、需要先（北海道地域暖房㈱）に供給
- ・公社の実施内容はごみ資源化工場運営の総括管理及び計量徴収業務（平成19年度までは運転・運搬も含めて一括受注）
- ・別途発注業務（資源化工場の運転業務、固形燃料運搬業務、等）

② 篠路破碎工場、篠路破碎工場付帯施設（平成25年度～）

- ・昭和55年12月完成の篠路破碎工場及び付帯施設（旧清掃工場の受変電等設備）
- ・破碎工場における自己搬入ごみ、大型ごみ等の受入及び破碎処理
- ・旧篠路清掃工場の受変電、給排水空調衛生等設備の運転による敷地内各施設への供給等
- ・公社の実施内容は破碎工場の運営及び旧篠路清掃工場の受変電等設備運転の総括管理
- ・別途発注業務（破碎工場の設備等運転業務、可燃物運搬業務、付帯施設等運転業務、等）

【令和2年度 事業実績】

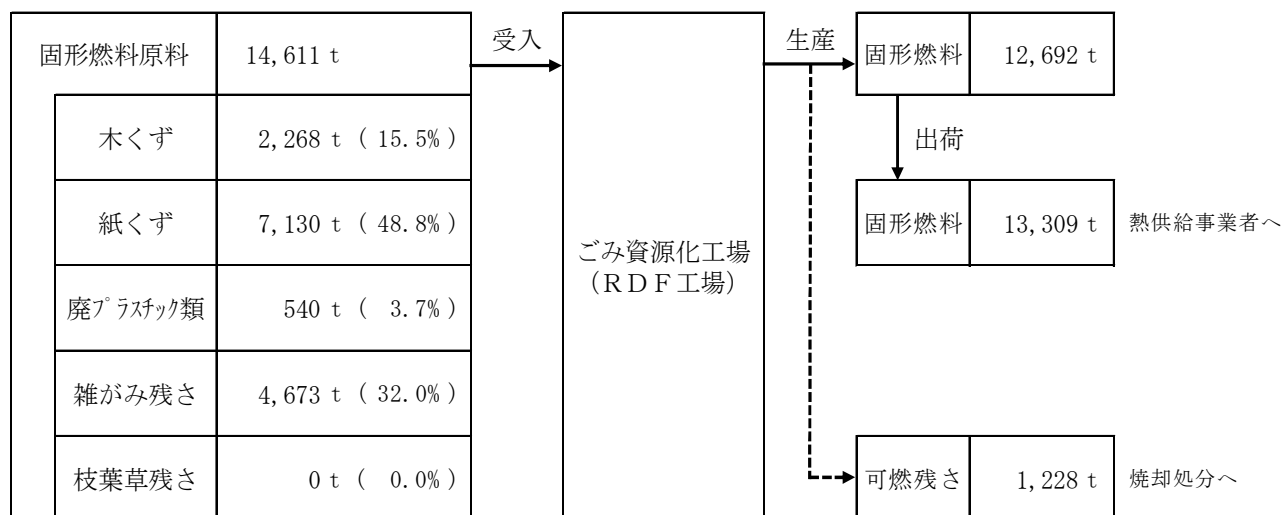
ごみ資源化工場（RDF工場）

項 目	計画	実績	摘 要
ごみ受入量	16,486 t	14,611 t	計画比 11.4% 減、前年度実績比 9.7% 減
固形燃料生産量	13,705 t	12,692 t	計画比 7.4% 減、前年度実績比 9.2% 減
固形燃料出荷量	13,705 t	13,309 t	計画比 2.9% 減、前年度実績比 1.8% 増

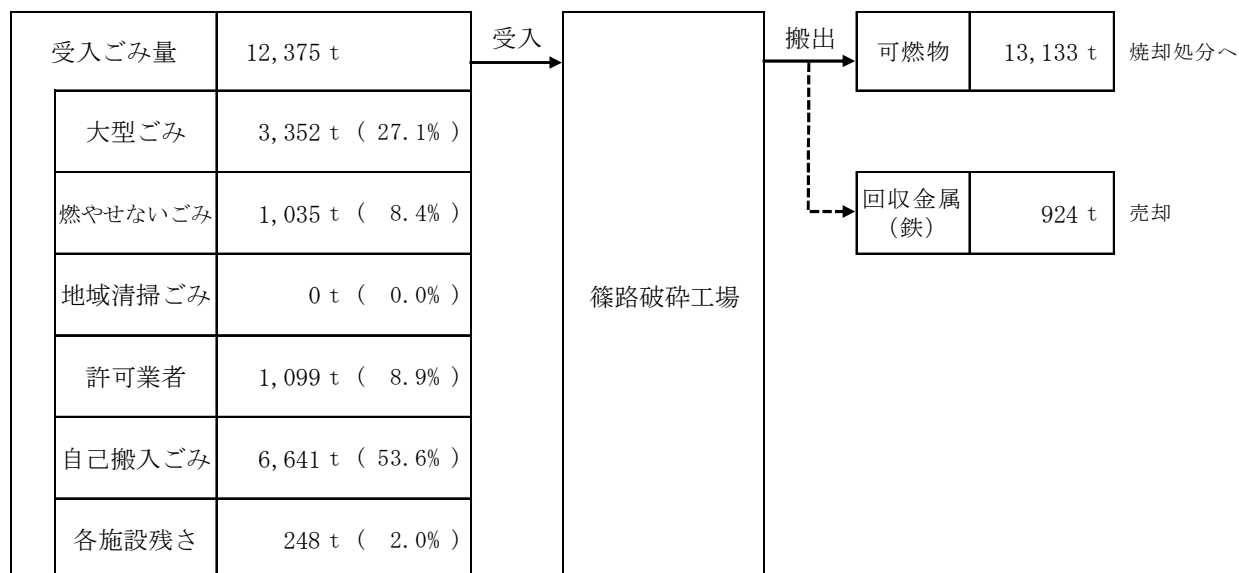
篠路破碎工場

項 目	計画	実績	摘 要
ごみ受入量	10,163 t	12,375 t	計画比 21.8% 増、前年度実績比 6.2% 減

【図3-8 令和2年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



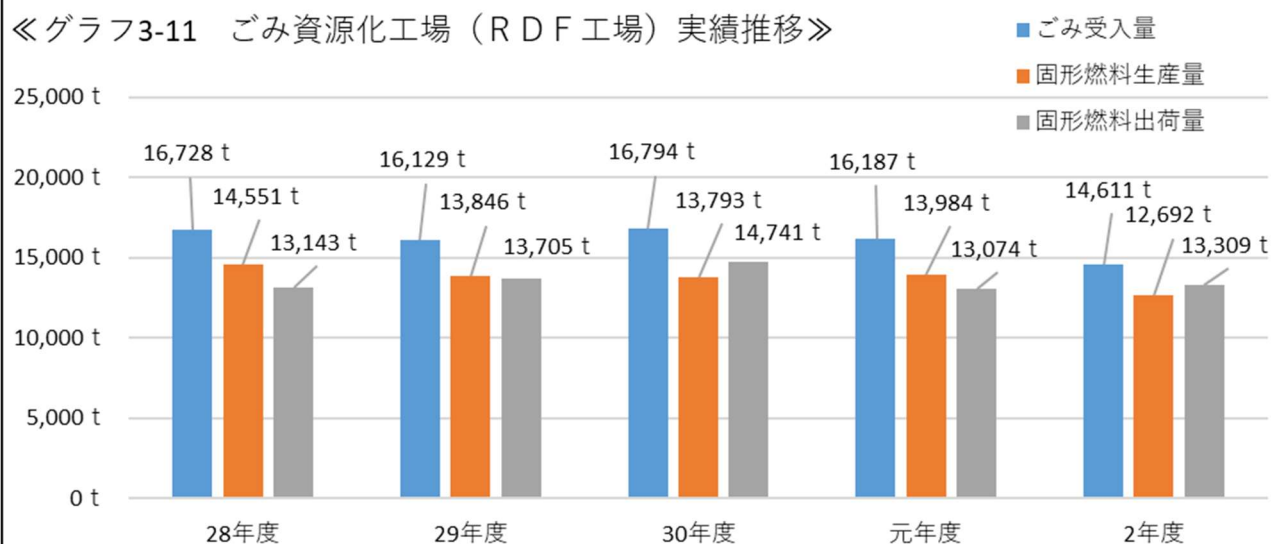
【図3-9 令和2年度 篠路破砕工場処理実績フロー図】



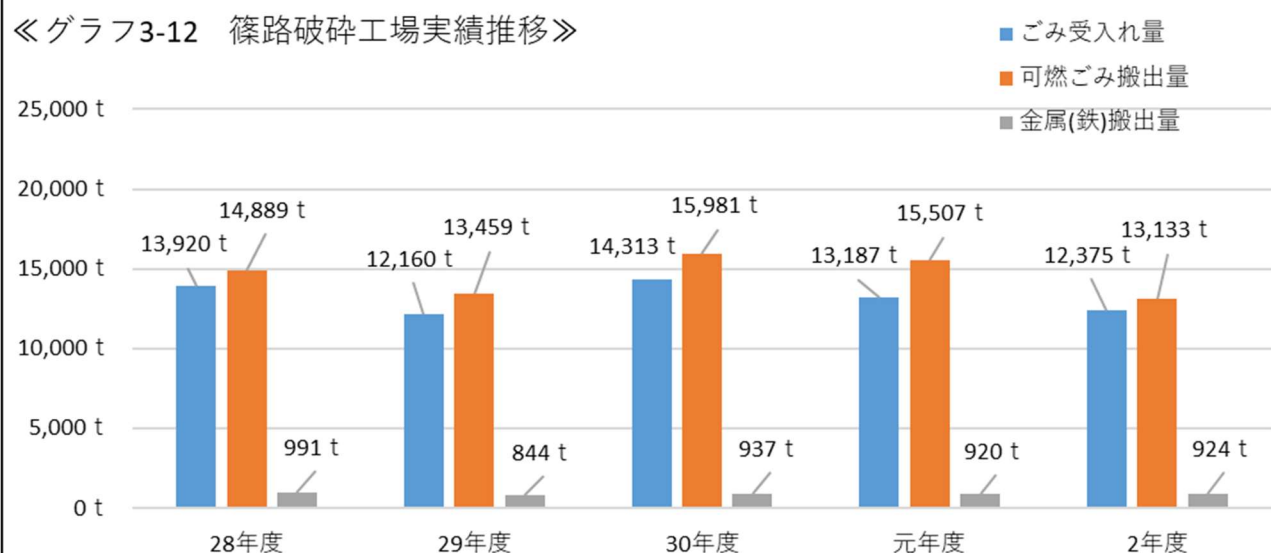
【表3-10 直近5年間の事業実績】

項 目		直近5年間の実績					摘 要 (令和2年度実績の状況)
		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
ごみ資源化工場	ごみ受入量	16,728 t	16,129 t	16,794 t	16,187 t	14,611 t	前年度実績比 9.7% 減
	固形燃料生産量	14,551 t	13,846 t	13,793 t	13,984 t	12,692 t	前年度実績比 9.2% 減
	固形燃料出荷量	13,143 t	13,705 t	14,741 t	13,074 t	13,309 t	前年度実績比 1.8% 増
篠路破砕工場	ごみ受入れ量	13,920 t	12,160 t	14,313 t	13,187 t	12,375 t	前年度実績比 6.2% 減
	可燃ごみ搬出量	14,889 t	13,459 t	15,981 t	15,507 t	13,133 t	前年度実績比 15.3% 減
	金属(鉄)搬出量	991 t	844 t	937 t	920 t	924 t	前年度実績比 0.4% 増

《グラフ3-11 ごみ資源化工場（R D F 工場）実績推移》



《グラフ3-12 篠路破碎工場実績推移》



(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（決算額 35,260,285円）

【対象施設と事業内容】

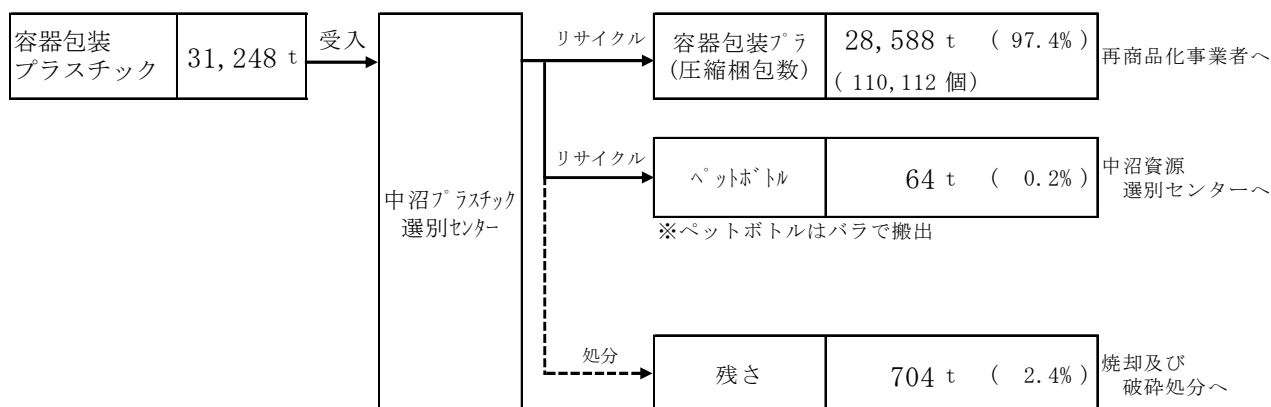
中沼プラスチック選別センター

- ・平成12年6月完成 処理能力82.6 t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び（公財）日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡す事業。
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元材等。
- ・公社の実施内容は、市との密な連絡調整に基づく別途発注業務の総括管理。
- ・別途発注業務（運転業務、残さ運搬業務、等）

【令和2年度事業実績】

項 目	計画	実績	摘 要
容器包装プラ受入量	30,500 t	31,248 t	計画比 2.5% 増、前年度実績比 4.2% 増
圧縮梱包品引渡量	27,810 t	28,588 t	計画比 2.8% 増、前年度実績比 4.0% 増

【図3-13 令和2年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】

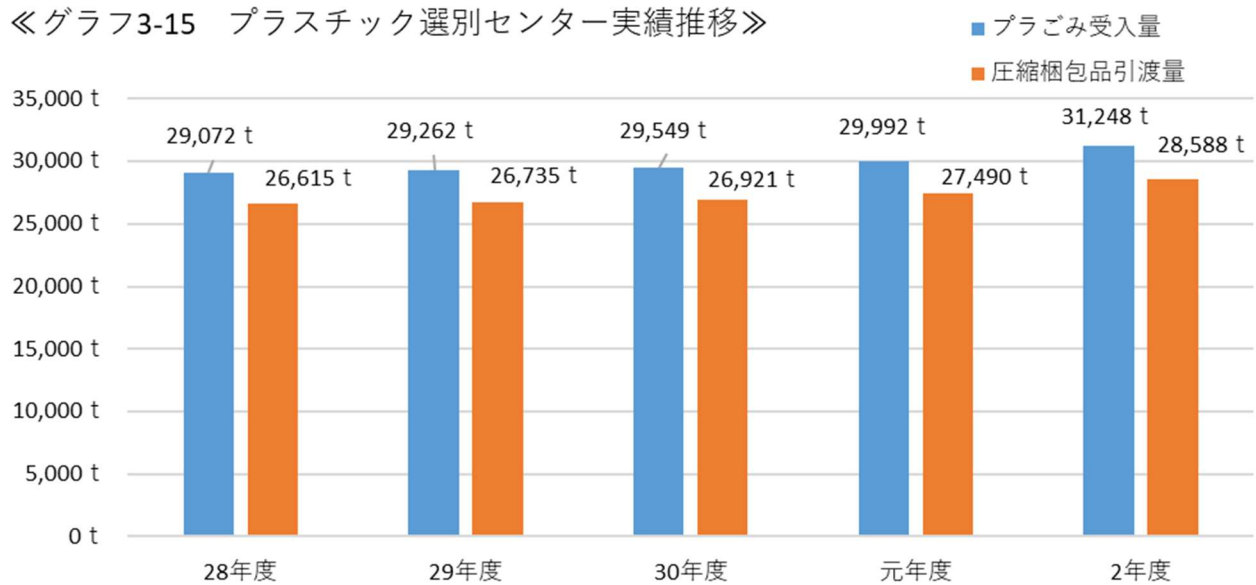


【表3-14 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和2年度実績の状況)
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
容器包装プラ受入量	29,072 t	29,262 t	29,549 t	29,992 t	31,248 t	前年度実績比 4.2% 増
圧縮梱包品引渡量	26,615 t	26,735 t	26,921 t	27,490 t	28,588 t	前年度実績比 4.0% 増
(同上圧縮梱包個数)	104,280個	105,236個	106,544個	107,360個	110,112個	
ペットボトル	68 t	70 t	66 t	66 t	64 t	
残さ	697 t	747 t	819 t	792 t	704 t	
リサイクル率	97.5%	97.3%	97.1%	97.2%	97.6%	

※リサイクル率＝（圧縮梱包品引渡量＋ペットボトル）／（圧縮梱包品引渡量＋ペットボトル＋残さ）

《グラフ3-15 プラスチック選別センター実績推移》



(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業（決算額 20,990,823円）

【対象施設と事業内容】

中沼雑がみ選別センター

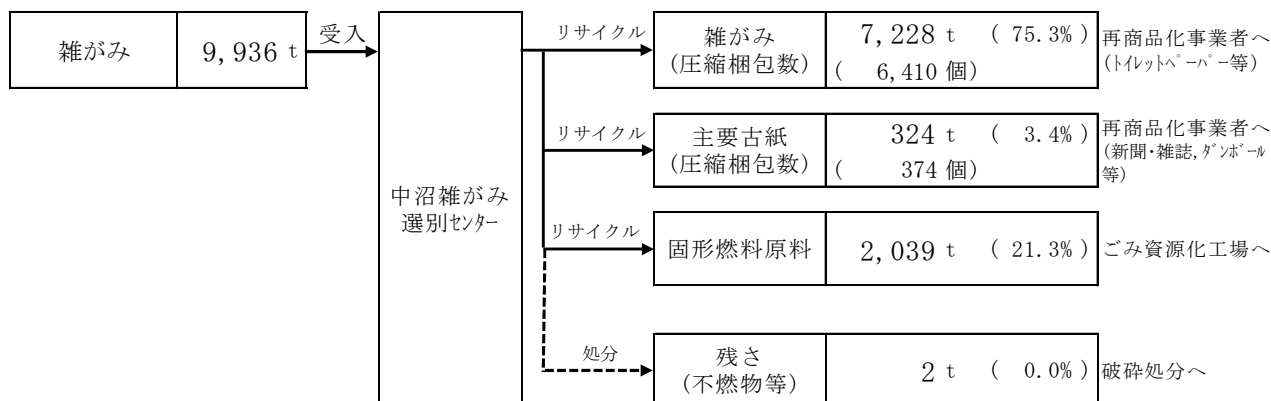
- ・平成21年7月供用開始（平成9年4月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修）
- ・処理能力85t/日（2系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する雑がみを受け入れ、選別、圧縮・梱包して、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者に引き渡す事業。
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生紙やトイレットペーパーの原料等。
- ・公社の実施内容は、市との密な連絡調整に基づく別途発注業務の総括管理。
- ・別途発注業務（運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、等）

※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

【令和2年度事業実績】

項 目	計画	実績	摘 要
雑がみ受入量	11,180 t	9,936 t	計画比 11.1% 減、前年度実績比 5.9% 減
雑がみ圧縮梱包品引渡量	8,888 t	7,228 t	計画比 18.7% 減、前年度実績比 8.2% 減
主要古紙圧縮梱包品引渡量	391 t	324 t	計画比 17.1% 減、前年度実績比 0.9% 減
圧縮梱包品引渡量合計	9,279 t	7,552 t	計画比 18.6% 減、前年度実績比 7.9% 減

【図3-16 令和2年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】

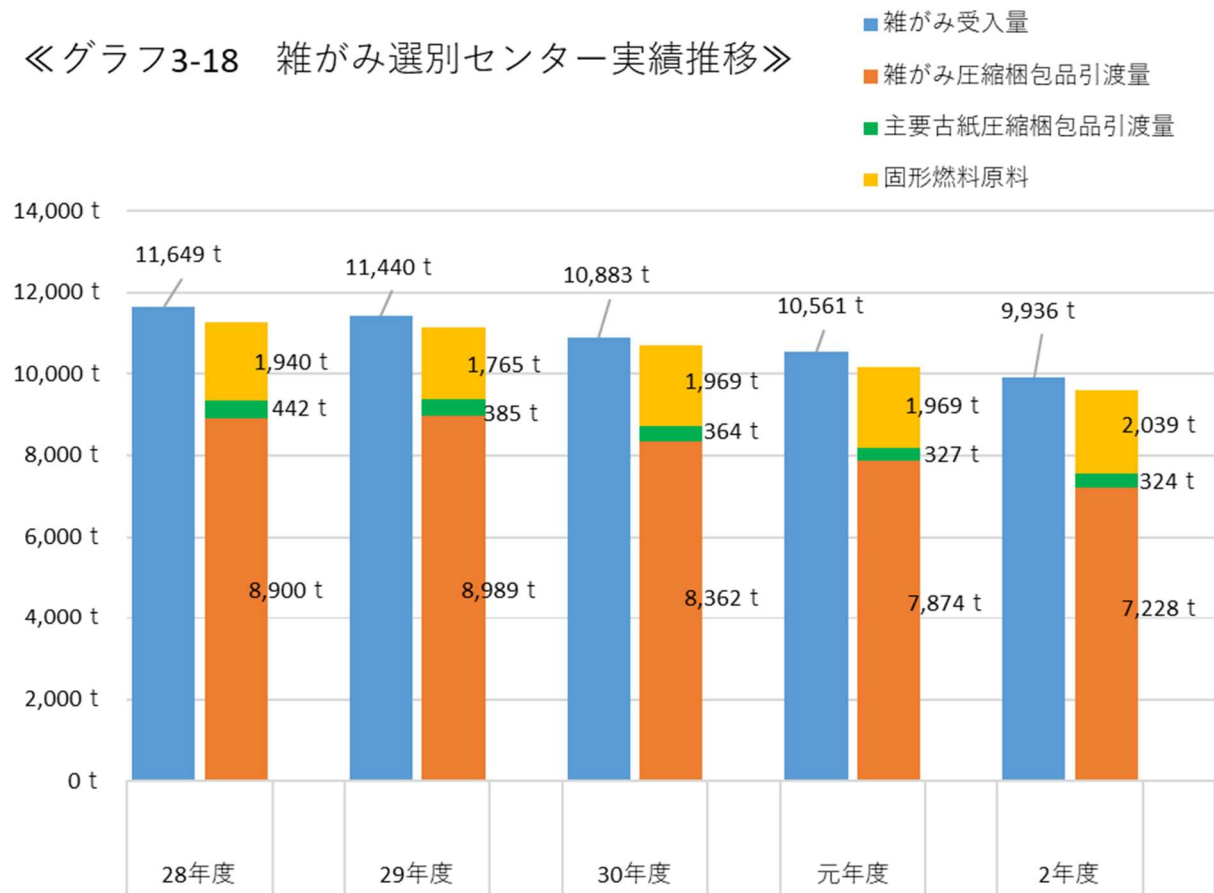


【表3-17 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和2年度実績の状況)
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
雑がみ受入量	11,649 t	11,440 t	10,883 t	10,561 t	9,936 t	前年度実績比 5.9% 減
雑がみ(雑がみ規格外品) 圧縮梱包品引渡量	8,900 t	8,989 t	8,362 t	7,874 t	7,228 t	前年度実績比 8.2% 減
(同上圧縮梱包個数)	8,464個	8,046個	7,513個	7,157個	6,410個	
主要古紙 圧縮梱包品引渡量	442 t	385 t	364 t	327 t	324 t	前年度実績比 0.9% 減
(同上圧縮梱包個数)	550個	484個	462個	418個	374個	
固形燃料原料	1,940 t	1,765 t	1,969 t	1,969 t	2,039 t	前年度実績比 3.6% 増
残さ	2 t	2 t	2 t	2 t	2 t	
リサイクル率	99.98%	99.98%	99.98%	99.98%	99.98%	

※リサイクル率＝（圧縮梱包品引渡量＋固形燃料原料）／（圧縮梱包品引渡量＋固形燃料原料＋残さ）

《グラフ3-18 雑がみ選別センター実績推移》



(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 21,365,145円)

【対象施設】 札幌市リサイクル団地

- ・ 札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群。
- ・ 平成6～8年度に札幌市が基盤造成を実施、平成7年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間6社7施設、市有2施設、公社1施設の合計10施設が立地している。

【事業内容】

- ・ 当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行うもの。
 - ① リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
 - ② リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
 - ③ 井水供給設備の維持管理業務
 - ④ 団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
 - ⑤ リサイクル団地協議会の運営業務（会議は原則月1回開催：7・12月を除く）
 - ⑥ その他の管理業務

【令和2年度事業実績】

- ・ 札幌市の所管課との密な連携のもと、いずれの事業も計画に従い、適切に行った。
- ・ リサイクル団地協議会を通じ、参入企業間の情報共有、各種調整を円滑に行った。

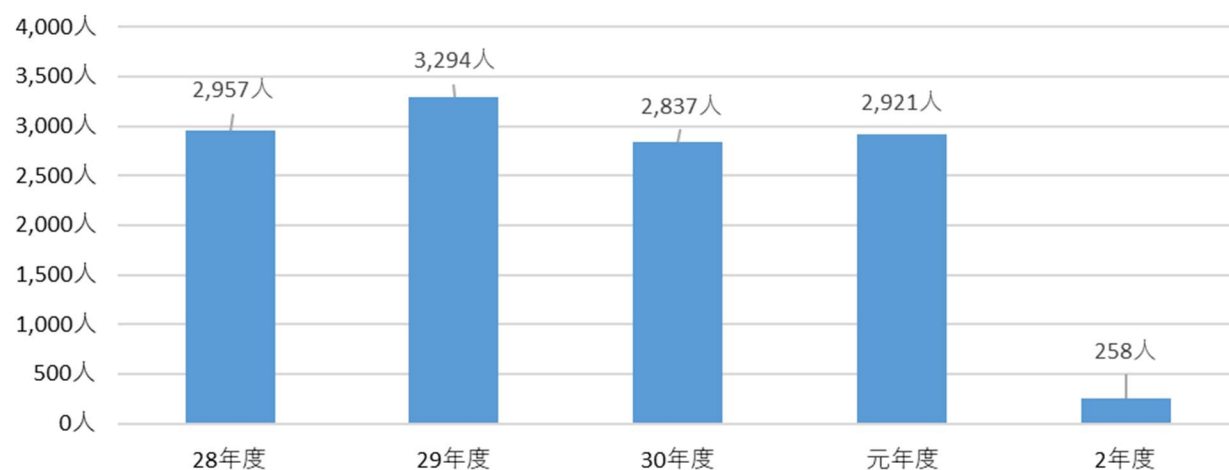
【表3-19 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和2年度実績の状況)
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
見学件数	150件	164件	165件	168件	38件	前年度実績比 77.4% 減
見学者数	2,957人	3,294人	2,837人	2,921人	258人	実績比 91.2% 減

※見学申し込みの受付案内については主に当公社ホームページにてPR。

※人数的には学校関係が最も多く、その他、他都市視察、官庁関係、町内会、JICA等。

《グラフ3-20 リサイクル団地見学者数推移》



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業（決算額 30,320,007円）

■事業概要

事業経緯	札幌市が平成9年度から開始した大型ごみの戸別収集の申し込み受付等を行う大型ごみ収集センターについては、当初は管理部門を市の直営体制で行っていたが、平成11年度から当公社が受託し、市との密な連携のもと、事業を実施している。
実施内容	- 札幌市の所管課及び別途発注業務との総括調整 - 別途発注業務：電話受付業務、収集業務 - 収集車両台数の調整、未収集等苦情対応、作業調整等 - 電話受付業務受託者が対応困難な苦情・問合せ等への対応
実施場所	大型ごみ収集センター（北1条西10丁目 ユーネットビル 2F）
目的・効果	札幌市のごみ処理計画に基づく円滑な事業の実施。

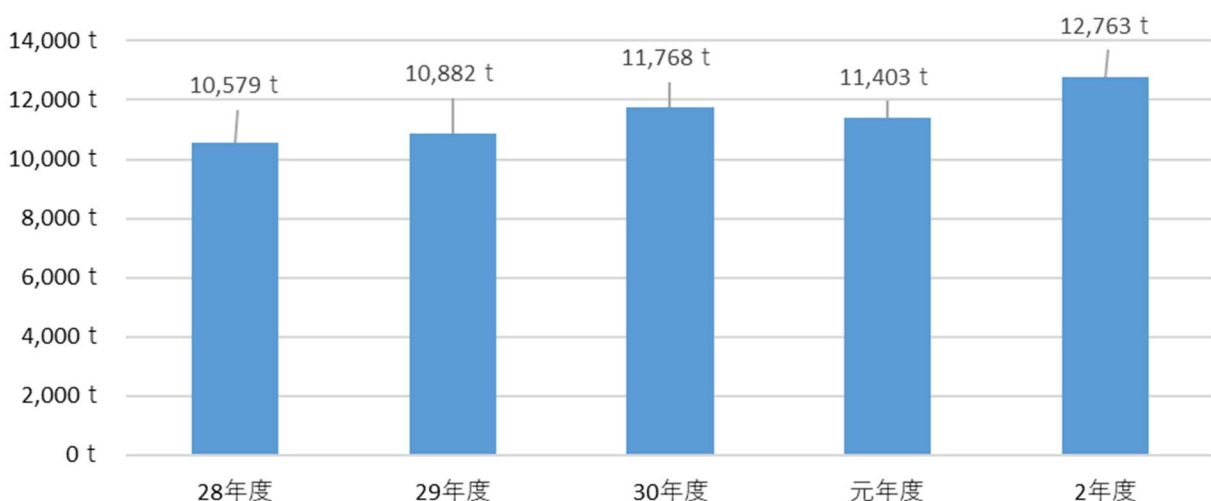
■令和2年度 事業実績

項 目	計画	実績	摘 要
受付・問合せ件数	488,761件	521,663件	計画比 6.7% 増、前年度実績比 10.2% 増
収集件数	339,179件	349,118件	計画比 2.9% 増、前年度実績比 7.3% 増
収集個数	848,569個	861,547個	計画比 1.5% 増、前年度実績比 6.0% 増
収集量（重量）	11,900 t	12,763 t	計画比 7.3% 増、前年度実績比 11.9% 増

【表3-21 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和2年度実績の状況)
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
受付・問合せ件数	435,182件	452,107件	472,700件	473,494件	521,663件	前年度実績比 10.2% 増
収集件数	299,821件	310,025件	328,257件	325,412件	349,118件	前年度実績比 7.3% 増
収集個数	760,148個	790,154個	826,842個	812,544個	861,547個	前年度実績比 6.0% 増
収集量（重量）	10,579 t	10,882 t	11,768 t	11,403 t	12,763 t	前年度実績比 11.9% 増

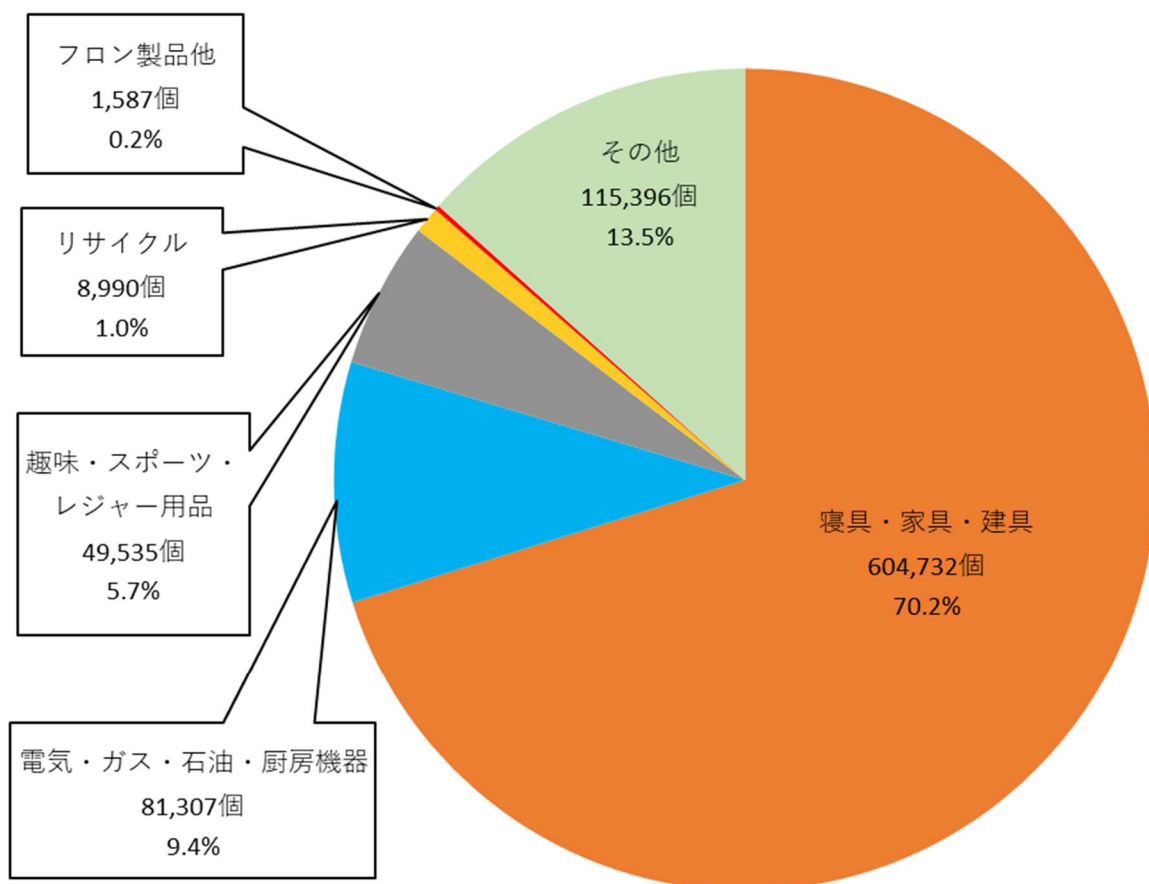
《グラフ3-22 大型ごみ収集量年度推移》



【表3-23 主な収集品目(上位10品目)】

	品 目	収集個数	割合
1	椅子	141,831個	16.5%
2	衣装箱	106,294個	12.3%
3	布団	87,236個	10.1%
4	テーブル	49,214個	5.7%
5	カーペット	30,972個	3.6%
6	ベッドマットレス	28,390個	3.3%
7	ベッド	28,247個	3.3%
8	自転車	28,008個	3.3%
9	カラーボックス	26,585個	3.1%
10	ロッカー	22,228個	2.6%
—	その他	312,542個	36.2%
	合計	861,547個	100.0%

《グラフ3-24 大型ごみ収集品目大分類内訳》



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 5,485,770,960円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業。
実施内容	1. 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物を収集運搬。 ・焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集。 ・リサイクルごみの種類は、紙くず・木くず・軟質プラスチックの「資源化ごみ」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2. 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬。
収集先	伝票収集：約 10,000 事業所、プリペイド袋収集：約 23,000 事業所
運搬先	「一般ごみ」→ 白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃プリペイド袋」「剪定枝」→ 篠路の資源化工場 「生ごみ」→ 中沼の札幌飼料化リサイクルセンター、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→ 中沼・駒岡の各資源選別センター
目的・効果	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進

■ 令和2年度事業実績

① ごみの総収集量

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積m ³	1,054,210	923,288	1,045,842	計画比 12.4%減、前年度実績比 11.7%減
重量 t	172,070	145,086	169,963	計画比 15.7%減、前年度実績比 14.6%減

② 廃棄ごみ・リサイクルごみの「収集量」「全体に占める割合」

廃棄ごみ＝一般ごみ

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積m ³	858,020	750,754	848,980	計画比 12.5%減、前年度実績比 11.6%減
重量 t	138,045	116,215	137,649	計画比 15.8%減、前年度実績比 15.6%減
割合%		81.3	81.2	廃棄ごみ体積／総収集量体積

リサイクルごみ＝一般ごみ以外

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積m ³	196,190	172,534	196,862	計画比 12.1%減、前年度実績比 12.4%減
重量 t	34,025	28,871	32,314	計画比 15.1%減、前年度実績比 10.7%減
割合%		18.7	18.8	リサイクルごみ体積／総収集量体積

③ リサイクルごみの収集量（体積m³）

	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
資源化ごみ	97, 190	87, 075	100, 249	計画比 10. 4%減、前年度実績比 13. 1%減
生ごみ	50, 400	42, 789	48, 995	計画比 15. 1%減、前年度実績比 12. 7%減
不燃用プリ袋	27, 550	25, 730	27, 368	計画比 6. 6%減、前年度実績比 6. 0%減
剪定枝	2, 490	2, 206	2, 384	計画比 11. 4%減、前年度実績比 7. 5%減
びん・缶・ペット	18, 560	14, 734	17, 866	計画比 20. 6%減、前年度実績比 17. 5%減

④ 家庭用パソコンのリサイクル収集台数（回収メーカー不在又は自作パソコン等）

資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは各メーカーが回収しているが、自作パソコン等は当公社で収集している。

収集品目	今年度実績	前年度実績	摘 要
パソコン本体等	5 2	5 0	前年比 2 台増
ディスプレイ等	4 3	3 5	前年比 8 台増
合 計	9 5	8 5	前年比 1 0 台増

■ 直近5年間の事業実績（ごみ総収集量の推移）

	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度	平均値
体積m ³	1, 038, 963	1, 054, 537	1, 060, 477	1, 045, 842	923, 288	1, 024, 621
重量 t	169, 101	171, 482	174, 222	169, 963	145, 086	165, 970

■ 契約件数

契約方法	今年度実績	前年度実績	摘 要
伝票収集	9, 8 9 9	9, 9 5 1	前年比 52 件減
プリペイド袋収集	2 3, 7 2 0	2 3, 2 8 0	前年比 440 件増
合 計	3 3, 6 1 9	3 3, 2 3 1	前年比 388 件増

重点事業

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

① 総収集回数の削減に向けた取組み

曜日別に効率化が可能な2つの収集コース及びすすきの地区周辺の大幅なごみ量の減少に伴い1つの収集コースを見直して収集回数を削減した。なお、プリペイド袋収集事業所の1回当たりの収集量が少ない事業所に対する「電話注文による収集」などの変更折衝については、コロナウイルス感染予防の観点から実施を見送った。

② 収集伝票発行方法の見直し

収集伝票の発行は、基本にごみを計量して収集後に2枚複写の「ごみ収集伝票」を印刷し、伝票に確認印をもらう手続きを行っているが、控えが不要な顧客について発行を止める機能がなかったことから、顧客ごとに印刷設定ができるようシステムの改修を行った。

③ 事務作業・収集作業に支障のある顧客サービスの見直し

搬入証明書に添付するための搬入状況の写真撮影について、作業員の安全確保と負担軽減を図るため、令和2年4月より廃止した。

また、FAXによる収集申込受付についても、WEBサポートサービスや電話での申し込みに誘導することにより、すべて廃止することができた。

(2) インターネットを活用した顧客サービスの導入

新たなWebサポート機能として、令和元年10月より開始した24時間利用できる「プリペイド袋収集受付システム」について、文書での案内や新規契約事業所への積極的なPRの結果、令和3年3月1ヶ月の実績では、受注総件数15,572件の約40%に当たる6,230件が、スマートフォンやパソコンからシステムを利用した受注となっており、顧客サービスの向上が図られるとともに、公社においては、電話での収集依頼が減少したことにより事務作業の改善を図ることができた。

(3) 公社職員及び代行収集員などの人材育成

① 公社職員研修の充実

公社では、日々600～1,000件もの電話による収集依頼や問い合わせがあるが、対応に統一感を持たせ、より円滑かつ的確な対応ができるように、業務上必要な知識やノウハウなどのレベルアップを目指して定期的な社内研修を行ったが、職責に応じた外部研修については、コロナウイルス感染予防の観点から受講を見送った。

② 代行収集員などの育成

「顧客に信頼される安全、確実な作業」に対する意識向上を図るため、代行各社において交通事故や作業事故の撲滅に向けた社内研修を実施したが、公社主催の「交通安全研修会」や公社職員と代行各社の業務担当者、ごみ収集マイスターを対象とした「合同研修会」については、コロナウイルス感染予防の観点から開催を見送った。